

しっぽ通信

十数年ぶりの「しっぽ通信」を発行致しました！皆様のお役に立つような情報を発信していけたらと思っております。
ご意見・ご感想、大歓迎です！！

猫科の動物はより注意が必要!?

猫科の動物は犬科の動物よりもSFTSウイルスに対して感受性が高いという報告もあります。つまりは、猫科の動物はSFTSを発症すると重症化しやすいといえるのです。

国内でも2017年7月に動物園で飼育されていたチーターがSFTSを発症し死亡した例もあります。

外に出ない飼い猫でも油断は禁物です。飼い主の服などにひつついたマダニに感染することもあるかもしれません。

まだ発見間もないウイルスのため、解明されていないこともたくさんあります。予防はしっかりとしておきましょう！

SFTSウイルスに注意!

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は2011年に中国で報告された新しいウイルスによるマダニ媒介性感染症のひとつで、人にも動物にも感染・発症するものです。

感染源はマダニ種で、マダニに咬まれたりSFTSに感染している動物の血液などに接触しても感染するといわれています。国内でも2013年1月に感染者の報告があり、年々感染者数が増えています。また致死率も約20%といわれ、人も動物も死亡例が報告されています。

国内の多くの野生動物・犬猫で抗SFTSウイルス抗体が検出されていることから、多くの動物達がSFTSウイルスを持ったマダニに咬まれたことがあり、多くのマダニ

がSFTSウイルスを持っていると推測されます。

マダニは気温の上がるこれからの季節に繁殖が活発になります。吸血前は体長4mm程度の大きさで草むらなどに潜み、そこに来た人や動物に乗り移り体長1cm程度までパンパンに膨らむまで吸血します。吸血中は顎を皮膚に潜らせて噛みついているので簡単には取れません。

感染予防対策はしっかりと!!!

感染予防といってもSFTSウイルスに対してワクチンがあるわけではありません。いかにマダニに寄生されないようにするのが重要といえます。

- ◇犬猫には定期的にマダニの予防薬を使用する
- ◇散歩後にはブラッシングなどで体表のチェックをする
- ◇マダニが寄生していたら動物病院へ連れて行きマダニを駆除する
- ◇噛みついているマダニを無理に取らないようにする(顎

が残ってしまい、炎症などの元になります)

◇草むらや林などに行く場合は、なるべく素肌の出ない服装で行く

◇外出後の服は脱いでからペットとふれあう

◇マダニを発見しても素手でつぶしたりしない

一般的なマダニは3月頃から11月頃まで活発に活動します。しかし、真冬でもマダニの寄生報告が多数あります。ペットのマダニ予防は通年する必要があるでしょう。

ノミ・マダニ予防を忘れずに



狂犬病予防注射 もうお済みですか?

狂犬病の予防については『狂犬病予防法』という法律があります。生後91日を過ぎた犬は登録し、年1回狂犬病予防接種を受けさせ、届けを出さなければなりません。

病気やワクチンアレルギーなどで狂犬病ワクチンの接種ができないなどの場合も、必

ず獣医師の診断を受け、狂犬病ワクチン接種猶予の届けをしてください。

狂犬病予防接種の時期は、基本毎年4月～6月末までになります。

まだ狂犬病予防接種がお済みでない場合は、お早めにご来院下さい。

一般的なノミ・マダニの予防薬には大きく分けて《滴下タイプ》《服用タイプ》があります。

服用タイプのものは美味しく食べられる様にお肉などのフレーバーが付いていますので、ワンちゃんには使いやすいですね。

また、ノミ・マダニだけではなく、お腹の寄生虫にも効果を示すものもございます。

ペットフードのこと知ってみよう

ペットも私たち人間と同じように、6大栄養素を必要とします。ただし、それぞれの動物種によって必要なバランスは違います。

動物種に合った栄養バランスのとれた食事を毎日作るとなると大変ですね。幸いペットにはそれぞれの動物に合ったペットフードというものが作られ、手軽に購入できます。しかし世の中にはいろいろな種類のペットフードがあり、どれを食べさせて良いのか迷いますよね。実はペットフードには目的別に大きく3つに分けられます。

総合栄養食	主要な食事として給与することを目的とし、このフードと水だけで健康を維持できるような栄養バランスのとれたフード
間食	おやつ、またはご褒美として限られた量を与えられることを意図したフード
その他目的食	特定の栄養やカロリーを補給・調整する、あるいは嗜好増進を目的とするフード 一般食・栄養補完食・特別療法食

【総合栄養食】は表の通り、このフードだけで必要な栄養を摂れるものなので、ペットの主食になります。基本的にはこのフードと新鮮なお水だけで充分といえます。

【間食】は《おやつ》なので味はとても美味しいです。ペットは好んで食べますが、これを主食にしてしまうと栄養が偏り、健康を維持できなくなる恐れがあります。

【その他目的食】の中の『一般食』『栄養補完食』はいわゆる私たちの食事と言う《おかず》です。おかずだけ

では栄養バランスのとれた食事とは言えませんよね。これらのフードは主食である総合栄養食と一緒に与えるように考えられています。『特別療法食』とは、病気などで特定の栄養素を制限もしくは補給をしなければならない場合の専用の食事で、獣医師の指示により与えるフードです。この『特別療法食』はそのフードと新鮮な水だけで各病態に合った栄養が摂れるので、基本的には他の栄養補完食などは必要ありません。

次に含有水分量別に分類してみましょう。主に【ドライタイプ】【半生タイプ】【ウェットタイプ】と分類できます。

	ドライ 水分量約6~10%	ウェット 水分量約68~78%	半生 水分量約23~40%
特徴	・エネルギー密度が高く経済的	・未開封で長期保存可能 ・水分量が多い ・嗜好性が高い	・嗜好性が高い
注意点	・十分な水が必要 ・開封後1ヶ月以内に使い切る	・開封後は短期間で使い切る ・総合栄養食でないもの多く栄養バランスに注意が必要 ・ドライタイプに比べて高価	・添加物として糖分(犬)や酸味料(猫)を使用 ・開封後はなるべく早く使い切る

フード選びのポイント

- ①【総合栄養食】と表示されたフードを選ぶ
- ②年齢に合わせたライフステージのものを選ぶ
- ③健康維持において気になる事がある場合は、特別な機能に配慮したフードを選ぶ
- ④体格や好みに応じて、粒のサイズ、味、ドライやウェットタイプなどを選ぶ

注意!《尿石症》や《アレルギー》など病気の診断をされ『特別療法食』を動物病院で処方された場合には、基本的にそのフードと水だけを与えるようにしましょう。

【ドライタイプ】【半生タイプ】は虫などの混入を防ぐため、パッケージごと密閉保存容器に入れ、高温多湿の場所での保管は避けましょう。

【ウェットタイプ】は開封後は早く食べ切るのが望ましいですが、保存する場合は密閉容器に移し替え、冷蔵保存をしましょう。ただし、長期保存はできません。また、梅雨時や夏期などは食べ残しはすぐに処分し、食中毒に注意が必要です。

あとは年齢(ステージ)によって【子犬、子猫、妊娠・授乳期用】【成犬、成猫用】【老齢期用】に大きく分けられます。最近では各ステージの中でも『関節が気になる子犬』『尿石症予防に配慮』『15歳以上用』などなど、さらに細かく分類されている

ものも増えました。

また、各犬種・猫種用だったり、ドライフードの粒の大きさやウェットフードの性状なども様々です。

このようなフードの特徴を踏まえて、それぞれの子に最適なフードを選びましょう。

おやつは控えめに

《おやつ》はあくまでも《おやつ》です。与える量の目安としては、1日の必要カロリーの20%以内に抑えましょう。おやつで満腹になって、肝心の主食が食べられない、などという事のないように!